

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区深川2-16-10シグマ印刷ビル1階
施設名	おうち保育園門前仲町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・みんなでアイスを食べよう！

〈テーマの設定理由〉

- ・暑い中、みんなでアイスを食べる楽しさや美味しさを味わえたら良いなと思ったため

2 活動スケジュール

- ・朝の捕食が終わったら、アイスについて(アイスはどうやってできているのかなど)を話す
- ・普段通りに散歩準備を行う
- ・清澄児童公園に向かう
- ・清澄児童公園に着いたら、階段もしくはブルーシートの上に座ってアイスを食べる

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・活動場所：清澄児童公園
- ・食べるアイス：しぼりたて牛乳のミニミルクバー(シャトレーゼ)
- ・ブルーシート・ウェットティッシュ
- ・紙エプロン
- ・水筒・コップ・ゴミ袋

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・アイスは前日に購入しておく
- ・前日もしくは2日前からアイスができる工程を写真や動画を見せながら話したり、みんなで食べるという事を知らせる。当日の朝も同じ説明をして理解度を深める
- ・普段通りに公園に向かう
- ・どのようにしてアイスを食べるのかを伝える
- ・公園に着いたら、座ってみんなでアイスを食べる

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

2日前に夕方の自由遊びの時間を使ってアイスを食べる事を伝え、アイスができるまでの工程も写真や動画で見せると「食べる!」「食べたい!」という声上がり、楽しみにする様子が伺えた。

当時の朝も同じような流れで伝え、楽しみにする様子が見られ期待感を持って散歩準備をしていた。

公園に着いてからも担当保育者からの話をきちんと聞く事ができ、シートの上に座ってからもアイスが貰えるのを落ち着いて待つ事ができていた。

立ちながら食べる児はおらず、落ち着いた雰囲気の中で食べていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

天候や子どもたちの体調を考え、食育を行う予定だった6月25日から7月2日に延期しそれでも行う事ができず、7月4日に行った。今は梅雨時期で天気が読めない事もあるのでもっとこまめに天気予報を確認して、延期のないように行えたら良かったと感じた。食べた場所も曇っていたので、日が当たる時間や場所も考えるべきだったと気付いた。

子どもたちには2日前に伝えたが、当日の朝も話した事を覚えている児が多く興味を持って話を聞いていた。保護者に確認取った際は、「味が好みではないかも」「アイスは食べないかも」など様々な話を聞いたが、実際に食べる時はアイスが保育園で食べられるという事に喜び完食していた。保育園でアイスが食べられるという特別感を感じていたのではないかと思った。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区深川2丁目16-10 シグマ印刷ビル1階
施設名	おうち保育園門前仲町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・暑い日が続く中で、室内でテーブルを囲んでかき氷を食べて涼む気持ちよさを味わう。
- ・0歳児も含めてみんなで同じ活動・同じものを食べる楽しさを感じる。

〈テーマの設定理由〉

暑くなってから、水遊びが盛んになった子ども達。氷は水からできていることを実際に体感し、食べてみることで不思議を味わえと考えた。
0歳児はまだおやつが食べられず、いつも食べたそうにしているので、同じものを食べる楽しさを少しでも味わってもらいたいと感じた。

2 活動スケジュール

水遊びをする中で氷を遊ぶものとして提供して触れ、氷に興味を持つ。
食べて確かめてみたい子もいる。
↓
かき氷を作ってみようとのことで、シロップの色やトッピングを自分たちで選び、『かき氷を食べる』ことに期待感を持つ。
↓
おやつの際に自分で削った氷を触ったり、水になっていく様子を見ながら食べる。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

活動場所：保育室(前日の午後)
氷遊び用に作った氷(口に入らない大きさのものを活動前に用意する)
活動場所：保育室(おやつ時)
かき氷機
かき氷用のカップ
食べる用の氷(当日の昼に購入)
シロップ(カルピスの原液(巨峰味))※事前に子ども達に選んでもらったもの
トッピング(パイナップル缶)※事前に子ども達に選んでもらったもの

かき氷を食べても大丈夫か保護者に事前に許可を得る。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

一週間前 子どもたちにかき氷のトッピングや味を多数決で決めてもらう。
↓
7/8 16:00 おやつ後水遊びをする。更に興味を持てるように氷の中におもちゃを入れたり、色々な形のものを用意する。
↓
7/9 15:00 かき氷づくりをする。ひとりずつ削る工程を体験し、溶ける様子を見ながら食べる。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

何を作るんだろう？という気持ちで味やトッピングを選ぶ子ども達。前はぶどう味が良かったが、今回はいちご味が良くなった、という心変わりする子や、しばらく考える子もいた。圧倒的に巨峰味が人気だった。

↓
氷遊びでは水の中におもちゃが入っていることで更に興味を引き、すぐに飽きてしまう児はいたものの氷が溶けてしまうまでの子ども達の集中力持続時間もちょうど良かった。「冷たい」「かたい」と氷への感想を伝えてくれる子、「どうやったら出てくるの？」「(おもちゃの)頭が出てきた！」と氷が溶けていく過程を楽しんだり不思議に思いながら観察する子の様子が見られた。保育者は、「こうやったら早く溶けるかも」と自身や子どもの腕に氷をあててみたり、一緒に溶かそうと奮闘する姿が見られた。

↓
かき氷作り当日は、子ども達が想像以上に期待感を持っていた。かき氷を回す工程を「やってみよう！」と、最初は気乗りしない子も最後には自ら「やる」と言って最終的に全員が体験することができた。かき氷も好評で、黙々と食べておかわりする子がほとんどだった。おかわりする時も、自分でかき氷機を回して生成していた。水になってゆくかき氷を飲み干す児も多かった。



真 2枚1枚あります()

5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

かき氷は初めて食べる子どももいたが、味がぶどう味で美味しかったからか、どんどんおかわりしたい様子だった。氷遊び→かき氷の導線は期待感を持たせることができ、味やトッピングを自分たちで選んだことで、数日前から「ぶどう味のかき氷食べたい！」と楽しみにする姿が見られた。自分で選ぶと印象深く残るので、選んでもらう事の大切さを再確認した。氷遊びでは集中力が続かない子も、かき氷は最後まで集中して食べる様子が見られ、当日までの活動でかなり心待ちにしていたと感じる。0歳児も親御さんが協力的で、ひとさじのかき氷を楽しむことができた。食べた後はもっと欲しそうにしていたが、触って冷たさを味わった。いつも給食やおやつを食べたそうにしている為、みんなと同じものを食べることができて多少なりとも嬉しさを感じたのではないかと思う。またすくわくに関係なく、かき氷は定期的にやりたいと感じた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区深川2丁目16-10 シグマ印刷ビル1階
施設名	おうち保育園門前仲町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

流しそうめん

〈テーマの設定理由〉

日本の伝統的な食文化に触れることで食への興味・関心を高めていく

2 活動スケジュール

- ・17:00～夕涼み会スタート
- ・保護者と一緒に縁日を回る
- ・流しそうめんの準備を目の前でする（※手伝いたい児は一緒にやってみる）
- ・17:35～流しそうめんスタート
- ・18:10 終了

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

流しそうめんセット(竹、水路、脚、ホース、排水ポンプ)
食材(そうめん、ブロッコリー、ソーセージ、みかん缶)

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・夕涼み会の中盤でみんな準備をする(手伝いたい児のみ)
- ・流しそうめんをスタート
- ・麺、みかん、ソーセージ、ブロッコリーをランダムに流していく
- ・30分ほどで終了

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

- ・流しそうめんセットが当日に来たので、保護者も巻き込んで試行錯誤しながら準備したことで一体感が生まれていた。
- ・はじめての流しそうめんできなくて上手にキャッチできない児もいるが、そばで保護者がサポートしながら和気藹々と食べていた。
- ・上流でスタンバイする児もいれば、最終地点のざるから掬いあげる児など各々個性が出ていた。
- ・離乳食児は刻んだ麺を提供した。無くなるとおかわりを求めて泣くほどだった。
- ・30分ほど時間を取ったが、ほとんどの児が最後まで参加していた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

子ども達にとっては竹の水路からそうめんが流れてくるというのは斬新なスタイルだったと思う。

また、食事のマナーとして「座る」「立ち歩かない」ことはセオリーだが、場面が違えば当たり前と思っていたルールが変わるということを自分自身が不思議に感じた。普段伝えているマナーは大切なことだと思っているが、色んな経験を沢山して柔軟な思考を身に付けて欲しいと感じた。その経験が場面に合わせて対応できる適応能力を育てるのかもしれない。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区深川2-16-10シグマ印刷ビル1階
施設名	おうち保育園門前仲町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・実際にアイスを作ってみよう！

〈テーマの設定理由〉

- ・戸外でアイスを食べたので、それを実際に作って「アイスはどうやってできているのか」をみんなで知る事ができれば良いなと思った為
- ・固まったアイスの感触を楽しみたい

2 活動スケジュール

- ・朝の捕食が終わったら、アイス作りについて説明をする。説明が終わり次第、アイス作りに使用するジップロックを配る。
- ・2歳児クラスから順に材料を受け取り、ジップロックに流し入れる。
- ・ジップロックに材料を入れて閉じたら、袋を振って混ぜる。
- ・混ぜ終わったら、子ども達から順番にジップロックを受け取って冷凍庫で固める。
- ・午睡明け、おやつ時間で作ったアイスを提供して食べる。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・活動場所：室内(朝の活動前の時間)
- ・必要な材料：牛乳・砂糖
- ・トッピングに使用するビスケット
- ・その他必要なもの：ジップロック・お皿・コップ

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・材料は普段の給食やおやつとは別で発注をする。砂糖は園にあるものを使用する。
- ・前日に「明日はアイスを作る」という事をイラストと共に伝える。当日の朝にも作る前に同じ話をする。
- ・説明が終わり次第、アイス作りを開始。ジップロックに材料を流し入れて、封を閉じたら振って混ぜる。
- ・混ぜ終わったら冷凍庫でおやつ時間まで固める。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

食育を始める前に戸外でアイスを食べた事をイラストを見せながら話すと、覚えている児が多く「アイス食べた！」と言ったりイラストを指差して反応していた。材料を袋に入れる作業があったため、保育者が手伝いながら順番に行った。2歳児クラスから行ったが、待っていた1歳児クラスが早くやりたくて「〇〇ちゃんも！やるー！」とやりたいアピールをする姿があった。保育者の見本を見ていた事もあり、材料入れた後もしっかり混ぜる事ができていた。食育活動後も「アイス食べたい！」「アイスどこにあるの？」と自分で作ったアイスを気に掛ける様子が伺えた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

アイスを作る際はバタついてしまい、子ども達にも待ってもらう時間が多くできてしまった。周りに保育者やインターンで来ていた方がいたので、もっと声を掛けて指示を出しながら一緒にやらしてもらえば良かったなと思った。子ども達は自分で器用に材料を入れたり、混ぜる事を楽しんだりと夢中で食育に取り組んでいた。実際に食べる時も「〇〇くんのアイスだー！」と喜ぶ姿が見られた。トッピングでビスケットも付けたが、どちらも美味しかったようで「おかわりしたい」と言う児が多くいた。またアイスなど作る機会があった際には量を調整して、おかわり分も用意しても良いなと感じた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区深川2-16-10シグマ印刷ビル1階
施設名	おうち保育園門前仲町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

・育てたスイカを食べてみよう！

〈テーマの設定理由〉

・夏の野菜に興味を持ってほしいが育てても食べないことが多いので食べやすいスイカにしてみた

2 活動スケジュール

- ①苗の購入（ホームセンターに買いに行く）
- ②苗植え
- ③水やり（約2か月間）
- ④収穫
- ⑤実食

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・土
- ・肥料
- ・苗
- ・小玉スイカ

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・プランターを玄関に入れて収穫を始める
- ・実の他にも蔓や葉っぱに触れて感触や匂い、形を観察する
- ・保育室に戻り、保育者がスイカをカットするところを眺める
- ・収穫したスイカから種取りをする（種は来年の夏に植えて育てる）
- ・購入した小玉スイカを食べる

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

・日々の水やりを楽しみにして、スイカの生長を喜んでいた
・収穫では実以外にも蔓や葉などにじっくり触れて興味を持っていた
・包丁を入れて中身が見えると歓声をあげていた
・種とりでは思わず口を開けてかぶりつこうとしていた
・保護者の方にスイカを食べることを伝えると「食べないと思います」という意見が多かったが、実際は全児よく食べていた



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

日々の水やりを想像以上に楽しみにする姿があった。花が実になったり、プランターの中に蟻を見つけたりと、小さな変化や発見をよく知らせてくれた。大人は(保育者も保護者も)食べないのではないか?という意見が多数あがったが、実際にはよく食べており、自分たちで時間をかけて関わった食材は興味を持って意欲的に食べられるのだと改めて感じた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区深川2-16-10シグマ印刷ビル1階
施設名	おうち保育園門前仲町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

・かぼちゃを使ってクッキーを作ろう！

〈テーマの設定理由〉

・かぼちゃが旬の時期でもあるので、季節の野菜に触れて野菜に興味を持って欲しいなと思ったため。

2 活動スケジュール

- ・朝の捕食後、椅子に座ってクッキー作りについて話をする。
- ・三角巾、エプロン着用。
- ・実際にクッキーの生地に触れる。
- ・好きな形で型を取る。
- ・終わった児から保育者に預ける。
- ・おやつで提供するため、午睡中にクッキーを焼く。
- ・午睡明けに焼きあがったクッキーを提供。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・活動場所：室内(朝の活動前の時間)
- ・材料：かぼちゃ、薄力粉、砂糖、油
- ・クッキーの型
- ・クッキングシート
- ・お皿

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・朝の自由遊び後に捕食する。
- ・捕食後にクッキー作りの話をする。
- ・予め作っておいたクッキー生地をクッキングシートと一緒に子ども達に配る。
- ・順番に方も渡し、保育者が援助しながら型を取る。
- ・終わり次第、子ども達から生地を受け取る。
- ・少しの時間冷蔵庫で保管し、おやつ前に焼く。
- ・焼きあがったクッキーをおやつとして提供する。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

保育者がクッキー作りについて話を始めると真剣に話を聞き、クッキーの生地や型に興味を示していた。
実際に目の前に生地がくると、嬉しそうに触って感触を楽しむ姿があった。0歳児も生地に触れたが、不思議そうな表情を浮かべつつも夢中で触れていた。時々口に運ぶ事もあった。
型取りも2歳児クラスはほとんど自分で行っており、0・1歳児も保育者と一緒に型を取って楽しんでいった。各々で好きな形の型を選んで取ったり、自分でオリジナルの形にするなどして夢中で取り組んでいた。
おやつの際も自分のクッキーがどうなっているか気にする様子があり、配られると「美味しい！」「これ自分でやったー！」など話しながら食べて完食する児がほとんどだった。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

クッキー作りはみんな夢中でやっており、楽しむ様子が見られたので良かった。各々生地をこねたり伸ばしたりと感触を味わっていた。0歳児も生地に触れたが、感触を楽しんだり時々口に運ぼうとする児もいた。予めクッキングシートに名前を書いて用意する予定だったが、そこが抜けてしまい回収する際にバタついてしまった。クッキングシートは前日にでも用意しておくべきだった。又、途中から飽き始めていた児とまだやりたい児と分かれて、その区切りをつけられずグダグダとしてしまった。食育後に活動も控えていたので、終わりの時間を決めてきっぱりと終わりの声掛けをするべきだった。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区深川2-16-10シグマ印刷ビル1階
施設名	おうち保育園門前仲町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

クリスマスケーキのデコレーションをしよう！

〈テーマの設定理由〉

できているケーキを食べることは機会があると思う。年齢的にや時間の都合上、ケーキを一から作るのは難しいが、自分の好きな果物を選んだり、スポンジクリーム、果物で自分なりのケーキをデコレーションしてみることで食べるだけではない楽しさも感じてほしい。

2 活動スケジュール

①12月に入ってからクリスマスも雰囲気を感じられるように室内装飾や絵本、歌などを日ごろから行っていく。ケーキについても絵本や図鑑などを見ながら知らせていき、25日に自分たちでデコレーションすることを知らせ、どんな果物を載せたいか話す。②23日に2歳児とどんな果物がいいか話し合い、買い物に行き実際にくだものを選んで購入する。③24日にはほかの学年にどんな果物を買ってきたのか2歳児が一人ずつ皆に紹介してケーキのデコレーションへの期待を高める。④25日おやつ時に、実際に保育士が使用する食材を見せ、実際にデコレーションするところを見せる。⑤5種類ある果物を自分で好きなものや量選びながらスポンジや生クリームと合わせてデコレーションする。⑥完成し実食する。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・絵本・ケーキ作りのシアター・スポンジ・生クリーム・果物（イチゴ、バナナ、白桃、ブドウ、パイナップル）

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

①2歳児：ケーキに乗せる果物を相談し決める②2歳児：スーパーに果物を買に行き、買った果物を他学年児に見せながらおしらせする③ケーキ作り当日：切った果物をみてどの種類をどのくらいほしいか伝えて自分で果物を選ぶ。選んだ果物をスポンジや生クリームと一緒にデコレーションする④自分で作ったケーキを食べる

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

クリスマスの雰囲気を事前に伝えていく中でケーキをデコレーションすることも伝えた。果物を事前に何にするか考える際は考えられずにいた子もいたが、実際に買い物に行くと目の前にすることで選んだり購入したりすることもでき、自分で選んだ果物という思いが強く重たいものもあったが自分たちで持ち帰った。デコレーション当日は、切った果物を自分たちで好きな種類や量を選んだ。量も多めに準備し、おかわりも自由にした。目が欲しすぎて大量に欲しがっている子もいたが中には好きなもの嫌いなものや食べきれぬ量を自分で考えて調整している子もいた。年齢が小さいためデコレーションよりも食べたくて選んだものをそれぞれ食べてしまう子もいたが、一通り食べた後に残ったものでデコレーションをして喜んで食べている様子もあった。その子により楽しみ方やデコレーションに関する取り組みは様々だったが、出来上がったケーキではなくケーキが何を組み合わせできているのかを知ることはつながった。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

2歳児クラスには果物を何にするか考え選ぶことも行ったことで、自分で選んだものという意識が強くなることを実感した。また、話し合いで決めるには少し難しかったり想像がつかない様子もあった。実際にそのものを見ることで選ぶことができる様子があり、実際のものを見たり触れたりすることの大切さも感じた。ケーキが何が組み合わさってできているものかを知る機会にはなった。今回はデコレーションというところに重きを置き、スポンジや生クリームなどは出来上がった状態での提供とし、絵本や資料だけで何からできているのかを伝えるのみとした。反応も良かったので、次に活動をするならスポンジや生クリームを作るところを見学したり実際にやってみる、果物例えばイチゴなどを実際に栽培してみるなども行って、何からできているのかを実際に体験し知るに移行して行ってみたい。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区深川2-16-10シグマ印刷ビル1階
施設名	おうち保育園門前仲町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

ぬか漬けを作って食べてみよう

〈テーマの設定理由〉

作る工程が楽しく、普段あまり好きではない野菜たちに触れ、少しでも食べてみようという好奇心をそそられると考えた。
また、キネティックサンドや砂遊びが大好きな子どもたちは更に興味をそそると思ったため。

2 活動スケジュール

- ・遊んでいるものを片付け、手を洗って
順次席に着き、バンダナを付ける。
- ・ぬか床をテーブルに置き、説明する。(ぬか漬け作りの動画の後、現物を出す)
- ・野菜が入ったぬか床を触ってみる。
- ・十分に触ったら順番に手を洗ってそのまま給食。
- ・前菜感覚で給食に出てきたぬか漬けを食べてみる。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・一口大に切った野菜 (きゅうり×4、キャベツ×半玉、ニンジン×3)
- 子ども達に揉ませるのは、きゅうりの端っこやキャベツの芯などを多めに
- ・「ぬか床」セット(大)×1(食べる用)(Amazonで購入)
- ・ぬか床セット×2(実践用)(Amazonで購入)

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・戸外活動から帰園後、手を洗って順次席に着き、バンダナを付ける。
- ・ぬか床をテーブルに置き、写真とともに説明する。
(ぬか漬け作りの動画を見せた後、現物を出す。)
- ・ぬか床を触ってみる。
- ・野菜を塩もみして、ぬかに漬ける体験をする。
- ・十分に触ったら順番に手を洗ってそのまま給食。
- ・前菜感覚で給食に出てきたぬか漬けを食べてみる。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

序章の保育者の説明は、全員熱心に聞いていた。実践してみたところ、最初は匂いが気になり、あまり触りたくない様子の子もいたが、保育者が「一緒にやってみる？」と声をかけると、頷いて一緒に触ってみる姿が見られた。動画や保育者の説明をちゃんと聞いていて、ぬかに漬ける前にしっかり塩もみをする子もいた。べたべたしてあまり触りたがらないのは男児が多い傾向にあった。給食の時間になり、ぬか漬けを出したところ、元々野菜好きな子はよく食べていたし、食べないだろうと前日に保護者の方が言っていた家庭の子も食べていた。普通の野菜は食べられるが、ぬかの香りが苦手で食べない子もいた。0歳児では、いつもより味付けの濃いものだったからか食いついて食べていた子もいた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

大人もなかなかやる機会のないぬか漬け。子どもも大人も楽しそうに体験していて、非常に良かった。結果食べなかった子の方が少なく、自分で楽しく料理をしたという自覚も持てて子ども達にとっても良い経験になったのではないかと感じる。砂遊びに近い感覚も、やる気を起こすには十分だった。正直始める前は、遊んでぐちゃぐちゃして終わりになると少なからず思っていたが、事前の説明から真剣に話を聞いてくれ、尚且つ一生懸命漬物体験をしてくれたことに、一年の成長を特に感じた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区深川2-16-10シグマ印刷ビル1階
施設名	おうち保育園門前仲町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

活きたエビをボイルして食べる

〈テーマの設定理由〉

毎日何気なく食べている食べ物は、元々は命がある生き物であったと知るきっかけになってほしいと思い、生きた状態から食材になるまでを感じられるような活動にした。

2 活動スケジュール

9:00 2歳児は園を出発(電車に乗って吉池へ行く)
10:55 全児お散歩から帰園
11:00 食育開始(見る・触れる・感じる)
11:30 茹で上がったエビを食べる ※そのまま給食へ移行

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・エアポンプ
- ・発泡スチロールのケース
- ・車エビ

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

2歳児：
電車に乗って吉池(鮮魚店)へ行きエビを購入

0.1. 2歳児：
エビをたらいに入れてじっくりと触ったり観察したりする。調理さんをお願いして茹でてもらう。自分たちで殻を剥き食べる。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

見る分には興味を持っていたが、触っていいと言われると戸惑う児が殆どだった。保育者が持って見せたり、目や手があることや動いているから生きていることを伝えると段々と触ろうとする児が出てきた。最後まで怖がっていた児もいたが、両手に乗せてもらったり、自分で掴み上げたりと少しずつ慣れてきた様子であった。いつも食べているお肉やお魚もこのエビのように命があったことを伝えると一応静かに耳を傾けてくれた。茹で上がったエビをそのままの姿で提供した。自分たちで殻を剥くつもりだったが、まだ難しいようだった。特に可哀そうと言ったり命を食べることに思いを馳せる様子はなく、食べるのが好きな児はよく食べ、偏食気味の児はいつも通り食べなかった。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

前年度は真鯛で同じような食育をしたが、その時の方が真剣に参加している児が多かったように感じる。真鯛の時は子ども達の前で生きている状態から捌くところまで見せたので、あとから感想を聞くと「可哀想だった」「痛そうだった」など命に対して何か感じるがあったような声が上がっていたが、今年度の車エビは茹でるところを調理室で行なったことや、車エビ自体が目や口が分かりにくくシンパシーを感じにくかったのではないかと思った。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区深川2-16-10シグマ印刷ビル1階
施設名	おうち保育園 門前仲町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

- ・春の日差しの下でのんびりとお弁当を食べる
- ・自分でおにぎりを作ってみよう

〈テーマの設定理由〉

暖かい春の空の下、開放的な気分の中でお弁当を食べることで食の楽しさや喜びを感じられるきっかけを作る。また、簡単な料理(おにぎり作り)を自分たちですることにより、食材への興味・関心を引き出していく。

2 活動スケジュール

09:45 おにぎり作り
10:15 散歩の準備
10:45 公園 到着
11:00 いただきます
11:25 ごちそうさま
11:30 公園 出発
11:50 帰園

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

食材：米、塩昆布、鶏肉、卵、ブロッコリー、いちご
その他：タッパー

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

おにぎりを2つ握る→味付け(塩昆布、ふりかけ)を自分で選ぶ
おかずをお弁当箱に詰める→唐揚げ、卵焼き、ブロッコリー、いちごの中から好きなものを選び、好きな分量を自分で決めて詰める

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

2歳児は何日も前から楽しみにしており、家庭でも話題に出していたとのこと。おにぎり作りでは力加減が分からずにラップからはみ出してしまったり形がいびつになったりしたがニコニコと楽しそうに作っていた。おにぎりの数は1人2つ。味は2種類(塩昆布・ふりかけ)を用意した。両方同じ味にする児、別々の味にする児、2つの味を混ぜる児と様々な姿があった。おかずを詰める際も自由に詰めていいと伝えると「○○ちゃんは野菜が苦手だから」と入れない選択をしたり、卵焼きを多めにしたり、おかずは少しがいいと言って少量だけにしたりと自分自身に合わせて調整していた。デザートの一ちごをいらないと言う児もいた。公園には10:30頃到着したが、今すぐに食べたいという声があがった。時間になりお弁当の準備の手伝いをお願いすると、みんなで協力してピクニックシートを敷いてくれた。いただきますをしたあとはみんな本当に嬉しそうにニコニコとよく食べていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

先生心としてはなんでもおいしく食べてほしい、ピクニック効果で苦手なものも食べられるようになれば...という気持ちが湧きがちだが、その気持ちを完全に封印して良かった。栄養面などのことを考えると賛否両論あるかもしれないが、今回のように自分で選ぶことで、自分は何が好きなのか、どうしたいのか、何をどれだけ食べられるのか等々子ども自身が自分と向き合う時間になったのではないと思う。幸せに生きる上では大切なスキルだと思うので、小さな機会ではあったが提供できて良かった。おにぎりも正直ぐちゃぐちゃだったがそれすらも愛おしいような温かい空気感があり不完全であることの良さや人間らしさを感じた。